

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

学校の概要

都道府県名	山形県
-------	-----

学校名	高島町立亀岡小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	16	16	25	25	19	17	1	119	

研究の概要

1. 研究主題

いきいきわくわく学習する子どもの育成

国語科・算数科の授業作りを通して

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 ・国語

(全ての教科の基礎となる言葉を通じた理解・表現の力を高めるため。)

全学年 ・算数

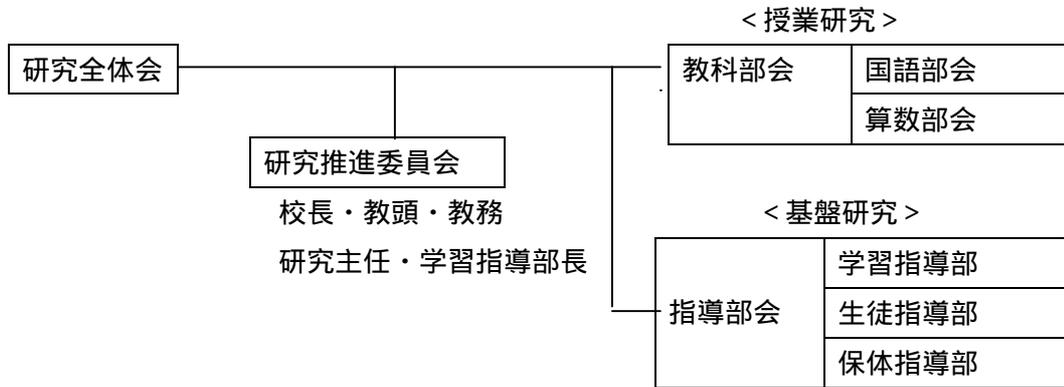
(子どもの理解度や興味関心に差がしやすい教科であるため。)

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ「学習の楽しさを感じる授業づくり」</p> <p>仮説 国語・算数の中で、一人ひとりに目を向けたきめ細かな指導方法を工夫し改善することにより学力の充実を図る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>交換授業の実施</p> <p>チームティーチングの実施</p> <p>児童の自己評価（振り返りカード）の工夫改善</p> <p>座席表の活用や抽出児童を設定しての授業研究会の実施</p>
平成 15 年度	<p>テーマ 「学習の楽しさを感じる授業づくり」</p> <p>仮説 教科の本質に触れる授業づくりや、五感を使って「学ぶこと」の意義や手ごたえを感じる授業づくりを通して、学力の充実を図る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>教科や単元の持つ「よさ」にふれさせる授業の志向</p> <p>学習の切実感や必然性を伴った単元、授業づくり</p> <p>効果的なTT指導の工夫（指導者の加配があったため）</p> <p>指導力向上をめざした研修（より共通理解をはかるため）</p>
平成 16 年度	<p>テーマ 「確かな変容を促す指導と評価の工夫」</p> <p>仮説 指導と評価の一本化を図る授業改善を通し、学習意欲の向上を図るとともに、客観性、信頼性を高める評価のあり方を探ることで学力の充実を図る。</p> <p>研究の内容・方法</p>

	自己肯定感や有用感を感じられる多様な評価方法の研究 各種テストの分析、活用に関する実践的研究の推進 1年次・2年次の成果と課題を生かして重点課題の取り組み
--	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<国語科について>

国語科におけるTT指導を試行しながら、一つの方法として形づくることができた。

1年生では、作文指導にTT指導を取り入れた。一人一人の思いにいていねいにすることができ、子ども達に書くことに対する抵抗を生まず、学習に対する意欲を高めることができた。

研究の対象を、物語から説明文などにも広げた。さまざまな授業の構成を考えながら、ねらう力をつけていくことができた。

5年生では、要旨をまとめるという学習に取り組んだ。物語でも言葉を手がかりに心情を考える学習を行ったが、説明文では、より言葉に着目して読み取ったり考えたりすることが求められるようになる。この学習を通して、文章や言葉と向き合いながら、集中して自分の考えを深めることができる子が増えた。

個を大切に授業を大事にしていくことが、全体の向上につながった。

課題に対して、全員が自分の考えを持つ時間を保証し、全員が考えを持つまで待つという姿勢で授業をした。子ども達は、全員本気で課題に取り組めるようになった。また、自分の考えを積極的に話せない子に対しても、学習プリントの交換などで、全員の考えをきちんとくみ取る場と時間を設定した。その結果、課題について、全員で解決していこうという姿勢が見られるようになり、この姿勢がほかの教科にも波及し、学級が全体的に向上してきた。また、指導者側でも、その時間の評価規準を明確に持つことにより、到達しない子をどうするのか、次の支援をいつも考えながら指導できるようになってきた。

<算数科について>

その単元でふれさせたい算数の「よさ」を明確にし、課題の設定や提示の仕方を吟味することにより、意欲的に取り組む姿が見られた。

4年生では、算数的な活動を導入に使うことで、どの子も前向きな思考で取り組んでいた。

個に応じた指導では、座席表などを活用し、意図的な個へのかかわりを持つことで、苦手な子どもだけでなく、上位の子どもへの支援も適切に行うことができた。

また、T・Tは、個のつまずきに対応しながら適度なスピードで授業を進めていく上で有効であることが確認できた。

交流活動では、その目的を明確にし工夫することにより、自分の考えや友達の考えのよさ・違いなどに気づいたり、新たな疑問を持ったりする場として有効であることが確認できた。

自力解決のための時間を十分に確保したり、手立てを工夫したりすることで、一人一人が最後まで自分の力で責任を持って解くことができた。

6年生では、既習事項を整理し、教室内に掲示することが自力解決の支援になっていた。

<全体として>

研究を通して、学校や家での学習の取り組みの様子にも成果が見られた。次は5年生でのアンケート結果である。(数値は『あてはまる』と答えた割合)一学期末に比較すると、 で伸びが見られる。「もっとわかるようになりたい」と言う気持ちが育ってきたと考えられる。 については、TT指導に関する別のアンケートで「勉強がわ

項 目	1月	昨年7月
わからないことは進んで質問する	47%	73%
難しい問題にも進んで挑戦する	52%	63%
テストでできなかった問題を後で確かめる	47%	21%
興味のあることは進んで調べている	63%	36%
学習用具は忘れずに持ってきている	78%	68%
宿題は忘れずにやっている	84%	84%
宿題がなくても進んで予習復習をする	68%	73%

かるようになった」という項目が伸びていることと合わせて考えると、子ども達の理解が進んだために割合が減少したと思われる。

2. 今後の課題

<国語科>

子ども達の学びをより豊かにするために、高まりや満足感のある交流の方法を、国語の単元や授業の中に組み入れながら、実践していく。

豊かな表現力の元になる語彙力が、質・量ともに増えたと実感できるような言語活動を学習の中に増やしていく。

<算数科>

「算数のよさ」に気づかせるために、魅力ある単元構成や「よさ」に気づかせる視点などについてさらに吟味したり、「算数的な表現」を繰り返し経験させたりしていく必要がある。

一人一人の考えを大切に、多様な考えを出させながら思考力を育てる授業では、全体の中で自分の考えがどうだったのか手ごたえを感じられるようにしたり、どのように収束させたりするかが大切である。個々の思考の流れを大事に扱いたい。

交流活動では、自分の思いを素直に伝えられる表現力や人と自分の考えの違いをはっきりさせ、指摘できる力を育てていきたい。

T・Tにおいては事前事後の指導が不可欠と感じているが、その時間の確保の難しさも感じている。T・Tメモの活用など日常的に継続可能な方法を探り工夫していきたい。

さらに発展的な課題に進んで挑戦できるような学習材等の環境を整えていく必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

学力テストによる把握

CRT テスト

NRT テスト

単元ごとのレディネステスト・確認テスト

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 公開研究会

日時 10月22日

場所 本校

内容 1年 国語 6年 算数 の授業研究会

対象 置賜地区教職員より希望者

2 研修会

(1) 示範授業研修会

日時 1回目 7月 11日 2回目 9月10日

場所 本校

内容 2年生の算数と1年生の国語の授業

授業者 山大附属小学校 奈良崎教諭 小沼教諭

対象 高畠町教職員希望者

(2) 講演会

日時 1月16日

場所 本校

内容 講演会テーマ「生きる力と真の学力観」

講師 上越教育大学教授 木村吉彦先生

対象 高畠町教職員希望者

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|-----------|---|---|--|----|
| 【新規校・継続校】 | 1 5年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 1 4年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下 | <input checked="" type="checkbox"/> 7 ~ 1 2学級 | | |
| | 1 3 ~ 1 8学級 | 1 9 ~ 2 4学級 | | |
| | 2 5学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T . Tによる指導 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制 | その他 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | 理科 |
| | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 |
| | 体育 | その他 | | |
| | 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | 無 | |